

# 平成25年度 事業報告書

(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)

学校法人 奈良学園

## 目次

I. はじめに	P. 1
II. 法人の概要	P. 2～5
1. 沿革	(P. 2)
2. 法人本部及び設置する学校の所在地	(P. 2)
3. 学校・学部・学科等の学生数等の状況	(P. 3)
4. 役員の状況	(P. 4)
5. 評議員の状況	(P. 4)
6. 専任教職員の状況	(P. 5)
7. 学校別の土地及び建物	(P. 5)
8. 全体地図（奈良学園キャンパス位置図）	(P. 5)
III. 事業の概要	P. 6～22
1. ハイライト	(P. 6～11)
(1) 奈良産業大学（現 奈良学園大学） 大学名称の変更と新学部の設置	(P. 6)
(2) 奈良文化女子短期大学 （現 奈良学園大学奈良文化女子短期大学部） 学習の質の向上に向けて カリキュラム内容の見える化への取組	(P. 7)
(3) 奈良文化高等学校 考古資料目録 伊瀬敏郎コレクション刊行	(P. 7～8)
(4) 奈良学園中学校・高等学校 SSH校として活動を充実	(P. 8～9)
(5) 奈良学園幼稚園・小学校、 奈良学園登美ヶ丘中学校・高等学校 繋がる学びと教育力	(P. 9～10)
(6) 奈良文化女子短期大学附属幼稚園（現 奈良文化幼稚園） 教育内容の充実と活気ある園づくり	(P. 10～11)
2. 設置校の主な事業と進捗状況	(P. 12～22)
(1) 奈良産業大学（現 奈良学園大学）	(P. 12～13)
(2) 奈良文化女子短期大学 （現 奈良学園大学奈良文化女子短期大学部）	(P. 13～16)
(3) 奈良文化高等学校	(P. 16～18)
(4) 奈良学園中学校・高等学校	(P. 18～19)
(5) 奈良学園幼稚園・小学校、 奈良学園登美ヶ丘中学校・高等学校	(P. 19～20)
(6) 奈良文化女子短期大学附属幼稚園 （現 奈良文化幼稚園）	(P. 21～22)
IV. 財務の概要	P. 23～28
1. 最近の投資と財務の状況	(P. 23)
2. 平成25年度決算の概要	(P. 24～28)
(1) 資金収支の概要	(P. 24)
(2) 消費収支の概要	(P. 25)
(3) 貸借対照表の概要	(P. 26)
(4) 平成25年度財産目録（概要）	(P. 27)
(5) 監査報告書	(P. 28)

[奈良学園大学 教育研究活動等の状況](#)（大学のページに移動します）

[奈良学園大学奈良文化女子短期大学部 教育研究活動等の状況](#)（大学のページに移動します）

## I. はじめに

本学園では、平成 20 年度から第二次中期計画をスタートさせ、平成 22 年度までの 3 年間に「奈良学園教育ルネッサンス」を掲げ、その根本精神である「人間中心主義」、「教学中心主義」、「本物一流主義」、「公平公正主義」、「安全安心主義」に基づき、六つの改善・改革（①総合学園としての体制を再構築する。）、（「②高等教育を再編し存続可能な教育機関とする。」）、（「③高田キャンパスの存続・発展を図る。」）、（「④登美ヶ丘キャンパスの開発を完成し発展させる。」）、（「⑤奈良学園中学校・高等学校の競争力を強化する。」）、（「⑥安全・安心、公平・公正な教育環境を構築する。」）に取り組んできた。

平成 21 年度には、経営環境がさらに悪化していく中で、日本私立学校振興・共済事業団の指導と助言を受けつつ、抜本的な計画の見直しを行い、平成 22 年度から 5 か年間にわたる「経営改善計画」を策定したが、平成 22 年度に入って、文部科学省による学校法人運営調査の対象法人となり、実地調査を受けた結果、平成 23 年度から 27 年度までを対象年度とする改訂版「経営改善計画」を策定するに至った。

平成 23 年度以降、この改訂された「経営改善計画」のもと、「教学改革計画」、「学生・生徒・児童・園児募集対策と学納金計画」、「人事政策と人件費の削減計画」、「経費削減計画」、「施設等整備計画」等の各改善・改革に取り組んできた。さらに、当初に掲げた「六つの改善・改革」において端緒すら掴むに至ることができないでいた「②高等教育を再編し存続可能な教育機関とする。」を推進するため、平成 23 年 7 月に高等教育検討委員会を立ち上げた。この委員会により、平成 24 年 1 月には、「高等教育の再編と再生に関する答申書」がまとめられた。

平成 24 年度は、この答申を受けて実行を進めるための組織である「高等教育改革推進委員会」、「高等教育改革推進室」を設置し、検討を行った。結果、平成 26 年度に奈良産業大学の名称を奈良学園大学に変更すること、人間教育学部人間教育学科、現代社会学部現代社会学科並びに人間社会学科、保健医療学部看護学科の 3 学部 4 学科を設置申請することを決定した。なお、このことから、平成 26 年度からの既存のビジネス学部ビジネス学科及び情報学部情報学科の学生募集を停止することとした。また、三郷キャンパスに人間教育学部と現代社会学部を配置することとし、保健医療学部は登美ヶ丘キャンパスを利用することを決めた。これに関連して、登美ヶ丘キャンパスにある奈良文化女子短期大学の名称を、奈良学園大学奈良文化女子短期大学部に名称変更し、総合学園としてのブランド力向上に資することとした。さらに、平成 25 年 1 月 7 日からは前述の委員会及び室を「(仮称) 奈良学園大学設置準備委員会」、「同設置準備室」に改編し、設置に向けた業務を強力に推し進めていくこととした。

しかしながら平成 25 年 8 月、現代社会学部については、申請を断念せざるを得ない状況となり、人間教育学部と保健医療学部の 2 学部でのスタートとなった。そのため、「学校法人奈良学園高等教育整備拡充委員会」を設置し、収支の均衡を前提とした中長期的な財政計画を多角的に策定・実行し、経営基盤の安定確保に取り組むこととした。

## Ⅱ. 法人の概要

### 1. 沿革

昭和 36. 3	学校法人中和学園設置認可。
昭和 40. 1	奈良文化女子短期大学教養科及び奈良文化女子短期大学付属高等学校の設置認可。 教養科入学定員 100 人、付属高等学校入学定員 100 人、4 月 1 日開校。
昭和 42. 1	奈良文化女子短期大学付属幼稚園の設置認可。 総定員 180 人、4 月 1 日開園。
昭和 45. 4	学校法人奈良学園に名称変更を行う。
昭和 54. 1	奈良学園中学校、奈良学園高等学校設置認可。 中学校入学定員 90 人、高等学校入学定員 90 人、4 月 1 日開校。
昭和 58.12	奈良産業大学の設置認可。 経済学部経済学科入学定員 120 人、経営学科 120 人、昭和 59 年 4 月 1 日に開学。
平成 19. 4	奈良文化女子短期大学付属高等学校を奈良文化高等学校に校名変更。
平成 19. 6	法人本部を奈良県大和高田市東中 127 番地から奈良県奈良市中登美ヶ丘三丁目 15 番 1 号に移転。
平成 20. 3	奈良学園幼稚園、奈良学園小学校、奈良学園登美ヶ丘中学校設置認可。 幼稚園総定員 155 人、4 月 1 日開園。 小学校入学定員 120 人、中学校入学定員 200 人、4 月 1 日開校。
平成 21. 3	奈良学園登美ヶ丘高等学校設置認可。 入学定員 225 人、4 月 1 日開校。

注) 平成 26. 4 奈良産業大学を奈良学園大学に名称変更し、人間教育学部人間教育学科、保健医療学部看護学科を設置。

奈良文化女子短期大学を奈良学園大学奈良文化女子短期大学部に名称変更。

奈良文化女子短期大学付属幼稚園を奈良文化幼稚園に名称変更。

### 2. 法人本部及び設置する学校の所在地

平成 26 年 3 月 31 日現在

学 校 名	住 所
法人本部	〒631-0003 奈良県奈良市中登美ヶ丘 3-15-1
奈良産業大学 <sup>*1</sup>	〒636-8503 奈良県生駒郡三郷町立野北 3-12-1
奈良文化女子短期大学 <sup>*2</sup>	〒631-8523 奈良県奈良市中登美ヶ丘 3-15-1
奈良文化高等学校	〒635-8530 奈良県大和高田市東中 127
奈良学園高等学校	〒639-1093 奈良県大和郡山市山田町 430
奈良学園中学校	〒639-1093 奈良県大和郡山市山田町 430
奈良学園登美ヶ丘高等学校	〒631-8522 奈良県奈良市中登美ヶ丘 3-15-1
奈良学園登美ヶ丘中学校	〒631-8522 奈良県奈良市中登美ヶ丘 3-15-1
奈良学園小学校	〒631-8522 奈良県奈良市中登美ヶ丘 3-15-1
奈良学園幼稚園	〒631-8522 奈良県奈良市中登美ヶ丘 3-15-1
奈良文化女子短期大学付属幼稚園 <sup>*3</sup>	〒635-8530 奈良県大和高田市東中 127

注)※1 平成 26 年 4 月 奈良学園大学へ名称変更

※2 平成 26 年 4 月 奈良学園大学奈良文化女子短期大学部へ名称変更

※3 平成 26 年 4 月 奈良文化幼稚園へ名称変更

(以下同様)

3. 学校・学部・学科等の学生数等の状況

平成 25 年 5 月 1 日現在

学校名	学部等	入学定員	収容定員	現員	備考
奈良産業大学	情報学部	200	800	160	
	ビジネス学部	200	800	394	H19.4 設置
奈良文化女子短期大学	幼児教育学科	100	200	185	
奈良文化高等学校	全日制課程 普通科	110 <sup>※1</sup>	330 <sup>※2</sup>	242	
	全日制課程 衛生看護科	80	240	245	
	全日制課程 衛生看護 専攻科	80	160	119	
奈良学園高等学校	全日制課程 普通科	200 <sup>※3</sup>	600 <sup>※4</sup>	573	
奈良学園中学校		160 <sup>※5</sup>	480 <sup>※6</sup>	477	
奈良学園登美ヶ丘 高等学校	全日制課程 普通科	120 <sup>※7</sup>	360 <sup>※8</sup>	327	H21.4 開校
奈良学園登美ヶ丘 中学校		120 <sup>※9</sup>	360 <sup>※10</sup>	344	H20.4 開校
奈良学園小学校		90 <sup>※11</sup>	660 <sup>※12</sup>	503	H20.4 開校
奈良学園幼稚園		35	155	110	H20.4 開校
奈良文化女子短期大学 付属幼稚園		60 <sup>※13</sup>	160 <sup>※14</sup>	187	

※1 募集人数。入学定員は 120 人。※2 各学年の募集人数の合計。収容定員は 360 人。

※3 募集人数。入学定員は 240 人。※4 各学年の募集人数の合計。収容定員は 720 人。

※5 募集人数。入学定員は 220 人。※6 各学年の募集人数の合計。収容定員は 660 人。

※7 募集人数。入学定員は 225 人。※8 各学年の募集人数の合計。収容定員は 675 人。

※9 募集人数。入学定員は 200 人。※10 各学年の募集人数の合計。収容定員は 600 人。

※11 募集人数。入学定員は 120 人。※12 各学年の募集人数の合計。収容定員は 720 人。

※13 募集人数。入学定員は 75 人。※14 各学年の募集人数の合計。収容定員は 255 人。

4. 役員 の 状 況 （ 平 成 26 年 3 月 31 日 現 在 ）

※理事定数 8 人以上 12 人以内【現員 11 人】 監事定数 2 人又は 3 人【現員 2 人】

理 事 長（常勤）	西 川 彭	学園長
理 事（常勤）	藤 原 昇	学校長の互選による
理 事（常勤）	松 田 親 典	学校長の互選による
理 事（常勤）	山 田 勝 美	学校長の互選による
理 事（常勤）	森 本 重 和	学校長の互選による
理 事（常勤）	古 川 謙 二	学校長の互選による
理 事（常勤）	古 田 雅 雄	評議員会の選任による
理 事（常勤）	廣 田 英 樹	評議員会の選任による
理 事（非常勤）	甘 利 治 夫	学識経験者
理 事（常勤）	梶 田 叡 一	学識経験者
理 事（非常勤）	中 本 勝	学識経験者
監 事（常勤）	梅 屋 則 夫	
監 事（非常勤）	村 田 智 之	

注) 平成 26 年 3 月 31 日退任

理事（常勤） 藤原 昇  
 理事（常勤） 松田親典  
 理事（常勤） 廣田英樹  
 理事（常勤） 梶田叡一  
 監事（常勤） 梅屋則夫

平成 26 年 4 月 1 日就任

理事（常勤） 梶田叡一（学校長の互選による）  
 理事（常勤） 吉田明史（学校長の互選による）  
 理事（常勤） 青木徳康（評議員会の選任による）  
 監事（常勤） 松田親典

5. 評議員 の 状 況 （ 平 成 26 年 3 月 31 日 現 在 ）

※評議員定数 21 人以上 25 人以内【現員 24 人】

法人職員	古田雅雄 植村明博 上田全克 福田 修 久保 守 菅田康裕 藤原和幸 角田道代 廣田英樹	学園卒業生	川戸昭人 光安寿一 池田順子 櫻井秀子 小鶴和美 山口小代美 岡下慎太郎 宮坂光行	学識経験者	朝廣佳子 小原壮一 政池 明 阪本道隆 田村雅宥 西川 彭 橋本俊雄
------	--	-------	--	-------	--

注) 平成 26 年 3 月 31 日退任

評議員 廣田英樹

平成 26 年 4 月 1 日就任

評議員 青木徳康

## 6. 専任教職員の状況（平成25年5月1日現在）

※学長・副学長・校長・園長・副校長・教頭は除く

校名	教授	准教授	講師 (大学・短大)	助教	助手	教諭	助教諭	常勤講師 (幼・小・中・高)	職員	計
奈良産業大学	33	14	7	1	0	0	0	0	46	101
奈良文化女子短期大学	6	4	2	0	0	0	0	0	14	26
奈良文化高等学校	0	0	0	0	0	41	0	4	10	55
奈良学園高等学校	0	0	0	0	0	33	0	0	6	39
奈良学園中学校	0	0	0	0	0	30	0	0	5	35
奈良学園登美ヶ丘高等学校	0	0	0	0	0	21	0	1	2	24
奈良学園登美ヶ丘中学校	0	0	0	0	0	21	0	0	2	23
奈良学園小学校	0	0	0	0	0	32	0	1	1	34
奈良学園幼稚園	0	0	0	0	0	7	0	1	1	9
奈良文化女子短期大学附属幼稚園	0	0	0	0	0	6	0	7	5	18
法人部門	0	0	0	0	0	0	0	0	35	35
計	39	18	9	1	0	191	0	14	127	399

## 7. 学校別の土地及び建物（平成25年5月1日現在）

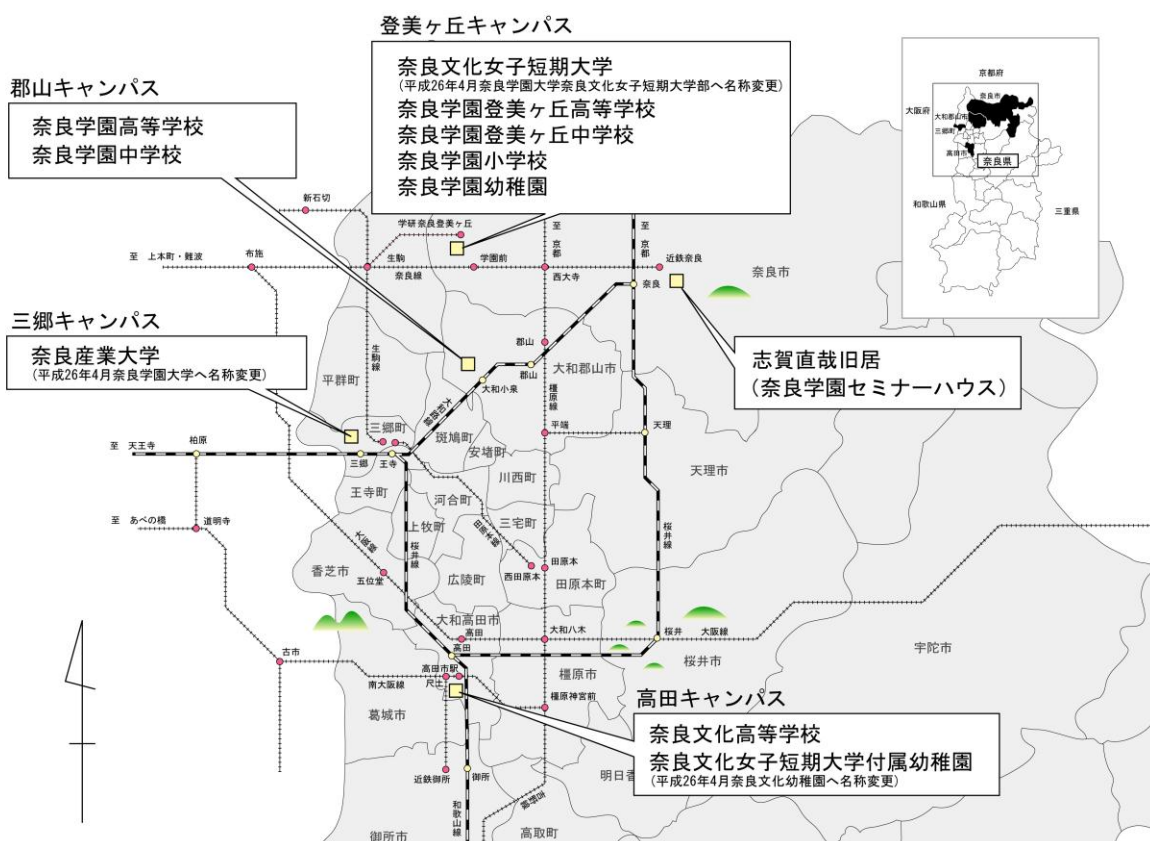
【土地面積】

奈良産業大学	203,745 m <sup>2</sup>
奈良文化女子短期大学	23,866 m <sup>2</sup>
奈良文化高等学校	55,665 m <sup>2</sup>
奈良学園中学校・高等学校	96,452 m <sup>2</sup>
奈良学園登美ヶ丘高等学校	20,017 m <sup>2</sup>
奈良学園登美ヶ丘中学校	20,017 m <sup>2</sup>
奈良学園小学校	23,734 m <sup>2</sup>
奈良学園幼稚園	2,996 m <sup>2</sup>
奈良文化女子短期大学附属幼稚園	4,564 m <sup>2</sup>

【建物面積】

奈良産業大学	32,785 m <sup>2</sup>
奈良文化女子短期大学	14,889 m <sup>2</sup>
奈良文化高等学校	22,789 m <sup>2</sup>
奈良学園中学校・高等学校	17,440 m <sup>2</sup>
奈良学園登美ヶ丘高等学校	5,835 m <sup>2</sup>
奈良学園登美ヶ丘中学校	5,911 m <sup>2</sup>
奈良学園小学校	7,697 m <sup>2</sup>
奈良学園幼稚園	1,230 m <sup>2</sup>
奈良文化女子短期大学附属幼稚園	1,452 m <sup>2</sup>

## 8. 全体地図（奈良学園キャンパス位置図）



### Ⅲ. 事業の概要

#### 1. ハイライト

##### (1) 奈良産業大学（現 奈良学園大学）－大学名称の変更と新学部の設置－

奈良産業大学は、平成 26 年度に大学名称を「奈良学園大学」に変更し、新しい学部である「人間教育学部」と「保健医療学部」を設置することとした。

本学は開学 30 周年を迎え、建学の精神を引き継ぎながら、時代のニーズに応えるべく、既存のビジネス学部及び情報学部の学生募集を停止し新たに 2 つの学部を設置することを、文部科学省に申請し認可を得た。

三郷キャンパスに設置する「人間教育学部」では、幼稚園、小学校、中学校における子どもの発達を見通し、また、卒業後の進路を見据えた指導体制を整備。豊かな人間力と柔軟な教育力、高度な実践力を養う。

登美ヶ丘キャンパスに設置する「保健医療学部」では、「看護師課程選択」「看護師・保健師課程選択」「看護師・助産師課程選択」の 3 つのコースを設置。30 床のベッドを設置し看護援助の基本技術を学ぶ 570 m<sup>2</sup>の広い看護演習室など、1 人あたりの演習時間を多く確保し、効率的な学びを提供する。

また、既存学部（ビジネス学部、情報学部）においても、「共生社会を考える」と題して公開シンポジウムを開催し、地域連携を深める取り組みや、講演会「アキ・ラ氏とカンボジア地雷博物館」を開催し、負の遺産である地雷が今も残るカンボジアの現状を考えるなど、国際交流及び国際理解の場を持つことで、「開かれた大学」を学生や地域の方々に理解いただいた。



幼小接続室（人間教育学部）

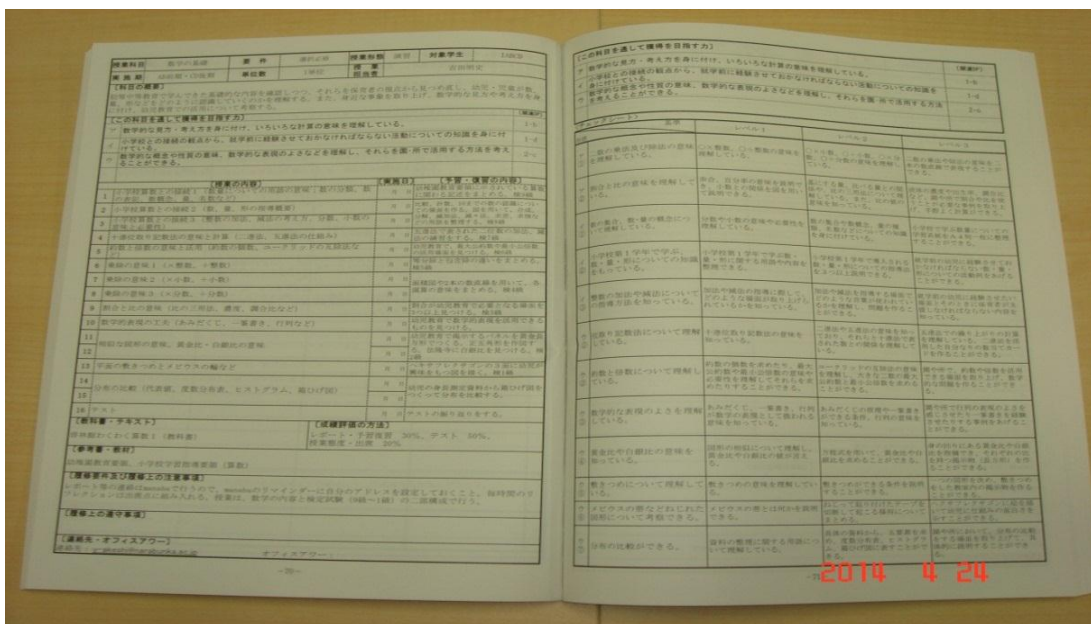


新校舎（保健医療学部）



(2) 奈良文化女子短期大学（現 奈良学園大学奈良文化女子短期大学部）  
 ー学習の質の向上に向けて カリキュラム内容の見える化への取組ー

平成 25 年度には各科目において予習・復習を十分にさせ、ディプロマポリシーに基づいて学生自身が何を達成できたかを自己評価できるよう各科目を通して「獲得を目指す力」をより明確化することを検討した。その結果、ディプロマポリシーを一部修正し、その内容をさらに肉付けするための下位項目を策定し、「獲得を目指す力」の具体的な指標にそって学生の達成レベルを 3 段階に分けたシラバスを作成した。



更に内容が充実したシラバス

(3) 奈良文化高等学校ー考古資料目録 伊瀬敏郎コレクション刊行ー

学園創設者の伊瀬敏郎氏は生家にほど近い竹内遺跡より出土した考古資料を多年にわたって収集していた。昭和 44 年 3 月、その寄贈を受けた学園では高田キャンパスの旧短大本館に考古学資料室を設けて陳列し、保管していた。

平成 23 年 4 月完成予定で高田キャンパス全面リニューアル工事を開始するに当たり、旧短大校舎、旧付属高校校舎は大半が解体されることとなった。高田キャンパスに存続した奈良文化高校では、それを機にこれら考古資料群を本格的に調査、整理するため、平成 22 年 4 月、葛城市歴史博物館に寄託して学術的調査を依頼した。神庭滋学芸員を中心とする三年余の精力的な調査研究により全貌が明らかとな

り、その成果を平成 25 年 11 月、「奈良文化高等学校所蔵考古資料目録一伊瀬敏郎コレクション」として刊行した。

資料群はコンテナ約 40 箱、五千点以上にも上り、竹内遺跡の他に一楽古墳や竹内古墳群の出土品も含まれ、竹内遺跡の時代区分の定説を覆す発見もあった。また、昭和 11 年に樋口清之の「大和竹内石器時代遺蹟」によって考古学者の注目を集めながらいつしか行方が知れなくなった幻の資料が、ほとんど散逸することなくこの中に含まれていたことも判明した。11 月 5 日、橿原考古学研究所所長菅谷文則氏らによる記者発表を本校において行なったところ全国紙、地元紙各社が参加、関心の高さを窺わせた。各紙の報道により資料価値の高さと共に、本校が貴重な出土品を新校舎みやび棟に常時展示して生徒はもちろん一般にも公開していることに注目が集まった。

平成 25 年度は本校の制服が大手出版社の企画で全国 2 校だけの賞を獲得したり、タブレット端末の教育利用が NHK ニュースで全国放送されるなど華やかな話題が相次いだ。それらに加え、校名にも謳う「奈良文化」を受け継ぎ、次代に伝える高校として本校が広く世に知られることとなった一年であった。



記者発表当日の様相

#### (4) 奈良学園中学校・高等学校－SSH 校として活動を充実－

平成 25 年度は、文部科学省から SSH（スーパーサイエンスハイスクール）に指定され 2 年目となった。当事業を高 1、高 2 の両学年で実施し、2 月には公开发表会を実施した。ベトナムでのサイエンス研修は、SSH コースに所属する生徒全員が参加した。



公开发表会の模様



ベトナムサイエンス研修での交流風景

本年度の主な教育活動は次のとおりである。

- ① 学外サイエンス学習（京大、神戸大、大阪府水産技術センター等々での見学や講義）
- ② SS 公開講座（土曜日に、著名な研究者等を招聘しての講座を実施）
- ③ SS 出前講義（京大、大阪教育大、奈良女子大等の先生が本校で講演）
- ④ ベトナムサイエンス研修（11名の生徒が、12月にベトナムの高校と大学を訪れ、研修と交流。現地の農村や橋の建設現場でも研修。）
- ⑤ 国内研修の実施（八重山諸島、兵庫県豊岡、京大演習林、東京海洋大学等）
- ⑥ 科学系部活動の実践
- ⑦ 地域への発信事業「奈良学塾」の実施

(5) 奈良学園幼稚園・小学校、奈良学園登美ヶ丘中学校・高等学校  
一繋がる学びと教育力

幼稚園から高校までの15学年が完成した。平成25年度における完成のために、「3+4-4-4カリキュラムルートマップ2013」、「中学校への内部進学の流れ」、「各学年シラバス」を作成し、学びの連続を図る一貫教育システムの計画を完成させた。また、本校の特色である異学齢交流活動としての総合グラウンドでの「合同運動会」、学習発表会と文化祭を融合した「尚志祭」を開催した。環境整備については、新たな視聴覚機器や情報機器の整備を図った。

教育力の強化については、年間を通じて教員研修や授業研究会、公開授業の開催に努めるとともに、園児・児童・生徒に対しても、外部講師による講演会や体験学習の機会を各校種で取り入れ、子どもの発達段階や心身の成長に応じた教育内容を展開することができた。第1回小6ハワイ宿泊学習、第2回高2オーストラリア語学研修を実施し、全校を挙げて国際交流活動にも積極的に取り組んだ。

また、危機管理や安全対策についても取り組みの充実を図り、警察署による防犯教室、消防署による合同火災避難訓練や地震避難訓練、AED救命救急講習など、災害等に対する安全管理についての研修や訓練を実施した。



登美ヶ丘講演会（ピーター・フランクル氏）



第1回小6ハワイ宿泊学習での交流風景

## （6）奈良文化女子短期大学附属幼稚園（現 奈良文化幼稚園）

### －教育内容の充実と活気ある園づくり－

園児数の増加（前年度比20%増加）に伴い、1クラス増設、また通園バス1台増車運行を実施した。園児数増加が教育環境の劣化につながらないように努め、保護者や地域ともに活気ある園づくりをめざした。

具体的には、園全体で楽しく体力づくりをするために、朝の集まり（園庭に全園児が集まって、体操、サーキット、運動遊びを楽しむ会）や体育遊び（リズム室での学年単位での運動遊び）をそれぞれ月1回実施し、高め合う集団づくりに取り組んだ。また、保護者のクラブ活動を積極的に展開できる場を提供したり、園の企画で子育て仲間が集う『子育てトークサロン「ほっこり」』の充実を図った。保護者の参画意識の高まりが育友会主催バザーの盛り上がりとなった。園と家庭とが一体感をもって子どもの育ちを見守ることを目的に、保護者に参加いただき園長座談会も行った。

地域へも積極的に働きかけ、和太鼓、茶道、稲作り、コマまわし等教えていただく機会を持ち、地域とのつながりの中での活気ある教育内容を盛り込んだ。

なお、本年度は奈良文化女子短期大学が高等教育再編の一環として大学名称を変更する際に本幼稚園においても、保護者、地域の方々から広く意見を聴き、名称に愛着ある『奈良文化』を残し『奈良文化幼稚園』とし、平成 26 年 4 月に名称変更することとした。



地域の方による食育（稲作り）

## 2. 設置校の主な事業と進捗状況

### (1) 奈良産業大学（現 奈良学園大学）

#### ① 教育活動

- ア) 「実践力」を養成するプロジェクト演習では、発表会を開催し、成果の確認を行った。
- イ) ビジネス学部が主催する W スクール支援では、税理士プログラムにおいて、3 回生 2 名が在籍し、簿記と財務諸表論の 2 科目を受講している。消費生活アドバイザープログラムでは、販売士検定に 4 名が合格した。
- ウ) 情報学部が進める高度情報学学士力育成においては、日本語検定：準 2 級合格者 2 名、3 級合格者 2 名、準 3 級合格者 3 名、数学検定：2 級合格者 1 名、準 2 級合格者 4 名、3 級合格者 2 名、と基礎学力向上が認められた。

#### ② 研究活動

- ア) 大学紀要の定期発刊 30 集を刊行し、計 30 編の論文等を発表することができた。また、地域公共学総合研究所は、その研究成果を所報第 4 集として継続発行した。
- イ) FD 活動における授業研究を継続実施した。
- ウ) 文部科学省科学研究費に現在は 10 件（内、分担金 3 件）が採用されている。

#### ③ 学生支援

- ア) リメディアル教育の一環として、専門の教員の指導の下で高校までの不得意分野を改めて学習することで基礎学力の向上を継続実施している。今年度前期には、前年度後期に指定した科目を不合格となった学生のうち 49 名が登録し 23 名が合格、後期には 46 名が登録し 7 名が合格し、成果を挙げた。

#### ④ 社会連携・地域貢献

- ア) 王寺町と共催の「リーベルカレッジ」を 3 シリーズ 10 回、奈良県経済倶楽部と共催の「奈良駅前大学」を 3 回、三郷町で「三郷町公開セミナー」を 3 回開催した。
- イ) 恒例化した「少年宇宙教室」は、テーマを「宇宙を調べるモノづくり」「親子で工夫！ロケットの科学」「レンズのふしぎと望遠鏡」として 3 回開催し 200 名近い参加を得た。
- ウ) 三郷町で結成した「産官学地域活性化連絡協議会」の一員として、近鉄信貴山下駅前ロータリーにイルミネーションを設置した。
- エ) 大学キャンパス開放イベントも継続実施し、お花見、夏休み花火イベントなどは、地域の多くの方に参加いただき好評を得ている。

#### ⑤ 国際交流

- ア) 友好協定締結校から特別聴講留学生として蘇州科技学院 7 名、華南理工大学 3 名、計 10 名を受け入れる一方、短期研修留学生として春にカンボジアメコ

ン大学 2 名、南京郵電大学 2 名、夏に香港城市大学 23 名、台湾屏東科技大学 17 名、青島理工大学 2 名、カンボジアメコン大学 2 名、黒竜江東方学院 6 名、タイスィーパトゥム大学 2 名、計 56 名を受入れた。

イ) 青島理工大学へ 1 名を語学研修留学 (1 ヶ月) に派遣した。

ウ) 東アジア文化交流研修では、東亜大学校 (韓国釜山市) の協力を受けて、日本人学生 7 名、特別聴講生 10 名が参加した。

#### ⑥ スポーツ振興

ア) 硬式野球部は、第 62 回全日本大学野球選手権大会に 4 季連続 17 回目の出場を果たした。女子バスケットボール部は、2 年連続で全日本インカレに出場し、初戦で筑波大に勝利した。陸上競技部は、第 72 回関西学生対校駅伝 (総合 11 位)・第 23 回関西学生対校女子駅伝 (総合 14 位) に出場した。剣道部は、第 57 回西日本学生剣道大会 (団体戦) で 4 回戦に進出した。

#### ⑦ 環境整備

ア) 新学部設置を踏まえた校舎改修の第 2 期工事を行った。研究室等の改装に加え、5 号館 3 階部分に奈良盆地を見渡せるビューラウンジを整備した。

イ) 保健医療学部が使用する登美ヶ丘キャンパスには、5 階建ての 2 号館を新築した。

#### ⑧ 学生募集

ア) 平成 26 年度に設置が認められた「人間教育学部」「保健医療学部」の学生募集に注力した。高校等の教員に対して、県内・近畿圏を中心に延べ 3,547 校の高校訪問、延べ 2,179 校の塾・予備校訪問を行い、新大学・新学部への理解を図った。また、受験生に対しては、会場ガイダンス 137 会場、校内ガイダンス 130 校に参加し、説明を行った。また、オープンキャンパスは 8 回開催し、延べ 477 人の参加を得て、本学の特長を理解してもらった。

イ) 人間教育学部は、志願者数 203 名となり、111 名の新入生を迎えることとなった。

ウ) 保健医療学部は、志願者数 912 名となり、88 名の新入生を迎えることとなった。

### (2) 奈良文化女子短期大学 (現 奈良学園大学奈良文化女子短期大学部)

#### ① 教育活動

ア) ディプロマポリシーをより具体化するためにシラバスの内容を拡充し、学生の到達度を「見える化」できる表も加えた。こうした検討を通じてディプロマポリシーを修正、さらに下位項目を策定した。

イ) 公開授業を年 2 回拡大した形で実施。その内容も踏まえて教職員で研修会を開催した。また授業アンケートを計 4 回 (記述式と得点式を各学期に 2 回)

実施した。学生の授業満足度は高いが、さらに学生自身の資質向上のための取組を検討した。

- ウ) 入学前教育「ウエルカム・ノート」の内容を検討し、より良い入学前教育ができるように改善を図った。
- エ) 入学前教育の一環としてピアノの出前授業やピアノの事前学習を実施した。
- オ) 「奈良文化を基礎として教養を深める」という本学の教育理念を具現化するため、神戸市立神戸セミナーハウスで実施した新入生学外オリエンテーションにおいて「燈花会体験」を行った。
- カ) 教職実践演習の実施に当たって、授業担当者間で内容や方法の調整を図り、臨場感のある充実したものにした。教育現場で想定される問題を取り上げ、ロールプレイや事例検討などの方法を活用し、具体的な学びの促進を行った。履修カルテの指導については、本学で作成している manaba folio を通じて学生自身の振り返りに対して担当教員から個別具体の指導助言を 2 回行った。
- キ) 本学独自の指導者用実習マニュアルを教員に配布し、学生には「実習の手引き」をテキストとして持たせて授業や実習事前指導等での積極的な活用を図った。全教職員も共通理解をもって、実習園への訪問指導を実施でき、効果を上げることができた。なお、幼稚園実習受け入れ先確保と市町村連携の観点から、県内 4 市町との連携協力協定を結ぶことができた。
- ク) 特別授業(キャリアデザイン演習Ⅱ)として 1 チーム 2 名が研究活動を行い、奈良県統計グラフコンクールに応募、特別賞奈良県知事賞を受賞した。学生は、統計学会から統計検定 4 級を与えられた。
- ケ) 図書室では、絵本に加え、幼児教育関連 DVD の整備をすすめた。図書配架と展示に工夫をこらし、興味・研究対象を考慮した情報提供に努めた。

## ② 研究活動

教員は各自専門分野に関わる研究活動、学会参加、著作物発表を行っているが、それ以外の特記事項を以下に記す。

- ア) 紀要第 44 号 (162 頁) を発行した。著者 13 名 (奈良産業大学 1 名、非常勤講師 2 名を含む) による 13 報文である。
- イ) 前年度各地で行われた研修会参加報告をまとめ、本学教授会で報告した。また今年度より各参加報告は直近の教授会でそれぞれ報告することにし、情報共有の迅速化を図った。
- ウ) 文科省科学研究費 1 件継続中。
- エ) 保育者養成校としての課題、短大幼児教育の在り方に関して、学内 3 名の教員による継続中の共同研究の成果を、全国保育士養成協議会研究大会及び本学紀要論文にて発表するとともに学内研修会でも報告し、学内で共通認識を



高めた。

オ) 特別准教授が「第 19 回 BESETO 美術祭東京展」で最高賞「公益財団法人日中友好会館理事長賞」を受賞した。

### ③ 学生支援

ア) 少人数教育の特長を生かし、基礎学力充実や就職力向上の授業や指導室を設け、学生の進路保障の充実を図り、高い就職率を維持した。

イ) 学園祭やフェスティバル等、学生参加の行事を通して、学生に発表する機会を与えた。

ウ) 大学独自の奨学金を充実し、学力・スポーツ両面から学生への経済的支援を行った。

エ) クラブ活動の支援を行い、バスケットボールの全国短期大学体育大会 6 連覇等の好成績を上げた。

### ④ 社会連携・地域貢献

ア) 子育て支援事業として奈良市から受託している「つどいの広場」は、「ちびっこ広場」と合わせて 7,509 名の利用があった。「ちびっこ広場」では本学教員の講座や、ゼミ活動を通しての学生のイベント参加もあり、本学の研究や教育に大きな成果を上げている。今年度は近隣に住む音楽家のミニコンサートも新たに追加した。今後も様々な機関との連携をとりイベントを実施していくとともに、「つどいの広場」でも足育など母親の関心が高いテーマでミニ講座も行っていきたい。

イ) 公開講座は、子育て親子対象講座として「いっしょに遊ぼう」、一般対象の教養・自己充実講座として「狛犬探訪」「雅楽教室」「奈良文化講座」、教員・保育士対象講座として「電子絵本作成講座」「救急時の対策講座」「幼児教育講座」を実施した。また、奈良県子育て支援大学ネットワークとしても、新たに子育て支援者対象の出張講座も含めた公開講座として「子どもの応急処置」「遊びの実践力をつけよう」を実施した。各講座とも参加者より高い満足度が得られたが、さらに参加者を増やすための方策が検討課題となっている。

ウ) 幼小接続 WG 合同研究会を年間 10 回開催。関西一円の現職教職員（保幼小・大学等）と本法人内教職員や学生とともに幼小接続カリキュラムについて研究を深めている。また、その一環として 3 月に「幼小接続フォーラム」を開催し、学内外から 119 名の参加を得た。

### ⑤ 環境整備

ア) 教室転用の図書室及び計 4 書庫に分かれて図書資料類が保管されていた状態から、新図書館に全てを集合、整理し、利用しやすい状態にした。

イ) 平成 26 年度からの四年制大学との共用に当たり、新館の増設を始めとする

キャンパスの改修作業が進められた。

#### ⑥ めざましいクラブ活動

- ア) バスケットボール部は、全国短期大学体育大会において6連覇を達成し、短期大学での地位を不動のものとした。また奈良産業大学との合同チームでは、関西学生リーグ1部で活躍し、日本インターカレッジ大会にも出場し、1回戦にて筑波大学を下した。
- イ) ソフトボール部は、短期大学単独チームとしてのハンデを克服し、関西学生リーグ1部への奪還を果たし、西日本インターカレッジ大会にも出場した。
- ウ) 文化部においては、書道部の大仏書道展への入選、茶道部や吹奏楽部の活躍も目立った。
- エ) このように各クラブの活躍は、クラブ生のみならず一般の学生へも好影響を与え、大学全体に自信と活気をもたらす好要因となっており、学生募集にも好影響をもたらしている。

#### ⑦ 学生募集

- ア) 全教職員での分担による高校訪問の実施
- イ) 全教職員と学生スタッフによるオープンキャンパスの実施
- ウ) 教職員による高校への出前授業や相談会等への積極的取組
- エ) 3年コース（長期履修学生制度）の充実および拡大認知
- オ) 遠隔地募集の積極的取組

以上により本学の教育活動や学生支援の理解が深まり、目標の定員確保ができた。

### (3) 奈良文化高等学校

#### ① 教育活動

- ア) 校舎内全教室をWiFiスポットとした環境が整い、i-Campusの取り組みがNHKで全国放送された。また、iPadを使った情報の授業や英語学習法など情報端末機を積極的に活用し教育効果を高めた。
- イ) 女子生徒が憧れるような「人生のモデル」となる女性をドリームナビゲーターとして招聘した講演会「DREAM STAGE in NARABUNKA」を開催した。生徒達の反応も良く、好評であった。
- ウ) 食文化コース開設のため、教育課程の再編を行い、カリキュラムを作成した。
- エ) 衛生看護科、衛生看護専攻科においては、Web情報を活用し、効果的な国家試験対策を行い、結果100%の合格を獲得した。

#### ② 生徒等支援

- ア) 教育相談体制に関すること（スクールカウンセラー等）  
毎週金曜日の午後にスクールカウンセラーが来校し、生徒・保護者・教員のさまざまな悩みについてカウンセリングを行っている。

イ) 高等学校生徒就学支援に関すること

家計急変により就学の継続が困難となった場合の支援については、学園就学支援規程に基づく支援体制がある。

ウ) 生徒等に対する表彰等

- ・新体操部、バスケットボール部、ソフトボール部、少林寺拳法部がそれぞれ全国大会に出場し活躍した。新体操部においては、第 29 回全国高等学校新体操選抜大会で女子団体第 5 位の好成績を収めた。
- ・市町村からの表彰については、和歌山県伊都振興局から本校 3 年生 1 名がボランティア活動の貢献として、「ジュニアリーダー活動奨励賞」を授与された。

③ 社会連携・地域貢献

ア) 第 22 回奈良県産業教育フェアに衛生看護科が参加し、作品展示や実演コーナーとして血圧測定と体脂肪測定を実施した。

イ) 地元公立中学校教職員を対象として、先行して導入した実例として、i-Campus の概要、取り組みを授業での実態を含め、利用法などを紹介した。

ウ) 11 月に本校所蔵考古学資料目録「伊瀬敏郎コレクション」と題した資料を完成させた。これらの収蔵品は本校みやび棟の回廊風展示スペースで一般公開されているほか、葛城市歴史博物館に保管、一部展示されている。

エ) JA 奈良県が主催する『キッズくらぶ&エール 55 in 橿原』のイベントにハンドボール部・演劇部を中心とした生徒が参加した。また、當麻寺周辺を中心に開催された『ゆめフェスタ in 葛城』には茶道部が参加し、地域との連携を深めた。

④ 環境整備

ア) 施設整備については、校舎、寮の新築に伴いセキュリティーを含め、設備の整備がほぼ完了し、維持管理に努めている。キャンパス内の環境整備については、リニューアルを機に奈良文化が香り広がる緑の広場に設えられた遊歩道「万葉の小径」に本年度も卒業生が卒業記念に植樹して、万葉集などに詠まれた草花が径沿いに次々に植えられて来ている。

イ) 合宿所の完成に伴い、4 月にはスポーツ特進コースの生徒を対象にリーダーズ研修を本年度も実施した。また多くのクラブで長期休暇等を利用した合宿を行い実力養成に効果を上げた。さらに、今年度は 8 月と 3 月に特進コースの生徒対象に「勉強合宿」を実施し、受験に備え「自学自習」の習慣と効果的な学習法を身に付けることができた。

⑤ 生徒等募集

ア) 公式キャラクター「ならぶんぶん」が奈良文化高校の様子をご案内するビジュアルノベルが完成した。

- イ) 学校案内の別冊（インフォメーションブック）に寮の内容を詳細に紹介し、広範囲に持参または送付し、親切丁寧な募集活動を実施した。
- ウ) 寮の整備が完了し、本年度も滋賀県、和歌山、三重、兵庫県等の遠隔地にも広報活動を展開した。特に地域の中核病院を奨学病院として採用することで、保護者や受験生、中学校や塾の関心を高め、看護師希望の生徒獲得につながった。

#### (4) 奈良学園中学校・高等学校

##### ① 教育活動

###### ア) SSH(スーパーサイエンス・ハイスクール)として2年目

平成24年度にSSH校に指定され、2年目となった。学外の大学等でのサイエンス研修、大学の先生等に来校していただいたのSS出前講義、SS公開講座、ベトナムの高校・大学とのサイエンス交流、国内研修などを実施し、2月には公開発表会を開催した。

ベトナムでの研修には、高2のSSHコース生（11名）全員が参加した。

###### イ) 医進コースと進路指導

医進コースの3期生が卒業した。国公立大の医学部（医）には、現浪合わせて、11名が合格、私立大医学部（医）には、7名が合格した。東大へ1名、京大へ7名、阪大へ7名が合格した。

###### ウ) 国際交流

国際理解教育として、高校1年生の希望者23名がオーストラリアでの海外短期研修プログラムに参加した。夏期休暇中の二週間、アデレード近郊の学校での研修、ホームステイなど異文化体験と英語研修をする良き機会となった。

##### ② 生徒等支援

ア) 日常的には、担任が懇切に指導し、生徒をサポートしている。スクールカウンセラーは、毎週木曜日に来校して、生徒、保護者のカウンセリングに当たっている。家計急変の高校生に対しては、授業料免除の制度もある。

##### ③ 社会連携・地域貢献

ア) 地域との連携として、市民向け公開講座「奈良学塾」を2回実施した。1回目は、7月に小学生と保護者を招待し、里山での研修、2回目は2月に、化学実験講座を実施した。また、年2回、通学路の清掃活動を行っている。

##### ④ 環境整備

ア) 校地内の里山を年次計画で整備している。施設設備については、校舎が新築されて完備した状態である。第一体育館（2階建て、空調完備）、第二体育館、青雲館（武道場、卓球場）、テニスコート（5面）、人工芝のサッカー場、グラウンドがあり、教育環境には恵まれている。

⑤ 生徒募集

- ア) 学校説明会の実施、学校外での説明会への参加、塾等への訪問活動などを精力的に実施した。大阪府の高校助成制度、他校の入試日の変更などの影響はあるが、受験者数は、微減程度であった。

(5) 奈良学園幼稚園・小学校、奈良学園登美ヶ丘中学校・高等学校

① 教育活動

- ア) 幼稚園では、昨年度導入したマーチング活動の発表を各行事で行った。また、園児の体力向上を図るため、年間を通じて外部講師によるスポーツ教室や短大アリーナを使った水泳教室、中高教員によるサッカー教室を実施した。また、預かり保育では、奈良市より就労家庭への幼稚園入園を推進するため、長期休業中の預かり保育実施への協力依頼を受け、夏期・冬期・春期休業中における預かり保育を実施した。
- イ) 小学校では初めて全学年が揃い、6 学年すべてのカリキュラムをこなすことができた。M2 (小 6) は、Middle 課程での学習内容及び成績を基に内部進学に向けて取り組み、83 名中 63 名が中学校に進学することになった。また、5 月に、M2 (小 6) が第 1 回ハワイ宿泊学習に組み、現地校との交流等に大きな成果を上げた。Primary 課程での生活科授業や、理科の天体観測会、国語社会のモンゴル体験教室、宿泊学習等の体験学習も各学年で実施した。
- ウ) 中高においては、高校各学年での長期休暇中の充実講座 (補習・補講) や Y3 (高 2) 宿泊セミナーを夏冬春の 3 回実施した。また、各学年の宿泊研修を実施し、第 2 回目となる Y3 (高 2) オーストラリア語学研修は、前年度の反省を生かして、その成果を上げた。2 学期にはオーストラリアの現地校の生徒が来校し、交流活動に取り組んだ。
- エ) 安全教育については、1 学期に校種単位での防犯教室 (奈良西警察署)、7 月に幼小中高合同火災避難訓練 (奈良西消防署)、7 月 (8 月) に教員対象 AED 救命救急講習、1 月に合同地震避難訓練など、災害等に対する安全管理についての研修や訓練を実施した。
- オ) 公開研究行事としては、幼稚園で 11 月に奈私幼公開保育研究会を開催し、本園教員が保育を公開した。小学校では、11 月に西日本私小連の算数科研修会場校として本校教員が発表を行った。

② 生徒等支援

- ア) 週 2 回のスクールカウンセラーを配置し、教員との相談及び打ち合わせや、保護者や生徒との定期的な相談 (カウンセリング) を行った。
- イ) 小学校では、読売新聞主催「第 63 回全国小・中学校作文コンクール」において、小学校低学年の部で文部科学大臣賞を受賞した 1 年生の児童に「学校法

人奈良学園栄誉賞」が贈られた。

③ 社会連携・地域貢献

- ア) 毎年の恒例行事として、10月に全校生及び保護者合同の「第6回ふれあい清掃」(地域清掃)を実施した。
- イ) 年間を通じて、本校正門前での登校指導を行い、地域の小中学生や高校生の通学の安全について、地域の方と協力しながら取り組んだ。

④ 環境整備

- ア) 開校以来の視聴覚機器の最終整備として、P棟及びC棟の特別教室の既存設備の更新、C棟セミナー室へのEシステム新設、C棟家庭科室へのAVモニターシステム新設、M棟教室にAVモニターシステムの増設を行った。
- イ) 本校育友会の協力によって、中学高校の普通教室に空気清浄機を増設した。

⑤ 特色ある教育活動

- ア) 本校の教育内容の特色である「15年(12年)一貫教育システム」の流れを示した「3+4-4-4ルートマップ2013」を完成させ、保護者に提示した。
- イ) 児童生徒向けの講演会活動としては、小学校では、2月にサイエンス教室(塩野香料株式会社「香り・香料について」)を実施した。中高では、毎年継続している登美ヶ丘講演(6月:ピーター・フランクル氏「人生を楽しくする方程式」、2月:池宮正信氏「嬉しい!楽しい!有り難う!自分が変われば周りも変わる」)を実施した。
- ウ) キャリア教育として、Y1(中3)で9月にキャリアリサーチ、2月に保護者によるキャリアトーク講座、Y3(高2)・Y4(高3)で本学キャリアセンターの石田秀朗氏による講演を実施した。

⑥ 生徒等募集

- ア) 幼稚園においては、体験入園や園庭開放に加えて、「2歳児わくわくルーム」を新たに開催して園内での活動を積極的に行うとともに、子育てサークルへの出前保育など園外での活動を充実させた。
- イ) 小学校においては、学外説明会に大阪本町会場を加えて4会場で実施し、地域拡大を図った。また、幼児教室において校長による子育て講演会を実施し、好評を得た。
- ウ) 中高においては、平成26年度M3(中1)からのコース制導入について、6月より積極的かつ丁寧に各塾を回って説明に努めた。また、学外説明会の梅田会場では、平日だけでなく日曜日も加え、地域拡大と参加者の便宜を図った。
- エ) Webを使った広告を実施し、広く校名を周知する活動に取り組んだ。

## (6) 奈良文化女子短期大学附属幼稚園(現 奈良文化幼稚園)

### ① 教育活動

- ア) 広い園庭、自然に恵まれた環境の中で、存分にからだを動かして遊び、体力の増進を図った。朝の集まり(園庭に全園児が集まり、体操やサーキット、運動遊びを楽しむ会)や体育遊び(リズム室での学年単位での運動遊び)をそれぞれ月1回実施し、集団として高め合う取り組みを行った。
- イ) 前年度に引き続き、裸足での活動を積極的に行った。土踏まずを形成し、風邪をひきにくい丈夫な体づくりを目指した取り組みを行った。
- ウ) 「描画活動における豊かな表現」をテーマに外部講師を招いて、年3回の園内研修会を実施し、表現活動の充実をめざした。
- エ) 高田キャンパス全体をフィールドとして、のびのびとした保育を展開した。例えば、キャンパス内での「みどりの幼稚園」、マラソン大会、高校のグラウンドでのたこあげ大会、高校施設を利用しての七夕まつり会、親子キッチン、お茶会、大浴場での入浴(お泊まり保育にて)など、充実した取り組みができた。
- オ) 短大の臨床心理士による「発達が気になる子どもの行動観察」を学期毎に設け、研修を実施し、実際の援助場面で活かすことができた。
- カ) 保護者によるクラブ活動の場を提供したり、子育て支援活動である「ほっこり」の充実などにより、保護者の参画意識を高め、園と家庭の相互理解、協力体制を強化した。

### ② 社会連携・地域貢献

- ア) 地域の田を借りて、年長児が田植えと稲刈りを体験した。収穫したもち米で祖父母とともに、もちつき大会を行った。
- イ) 地域の文化人を招待し、園児が習う機会を持った。地元の葛城太鼓より和太鼓の指導にきていただき、オリジナル曲を制作した。また、お茶会を3回実施したり、コマまわし名人とコマまわしを楽しんだ。

### ③ 環境整備

- ア) 園児数増加に伴い1クラス増設し、8クラス体制での運営となった。教員9名と補助教員4名を配置し、きめ細かく行き届いた保育ができる環境を整えた。
- イ) 通園バスを1台増車し、4台で8コース運行とし、園児の乗車時間が昨年度以上に長くないように整えた。
- ウ) 子ども達を取り囲む環境問題に敏感に対応し、全保育室に空気清浄機を完備した。また、給食の原材料、仕入れ先等をホームページで公開し、食の安全を重視した。

④ 園児募集

ア) 募集定員を上回る受付となり、平成 26 年度は園児数が増加する見込みである。

(全園児数：平成 25 年度 187 名→平成 26 年度 203 名) これに伴い、1 クラス増設することになった。平成 26 年度は、3 クラス×3 学年となり、9 クラス編成となる。

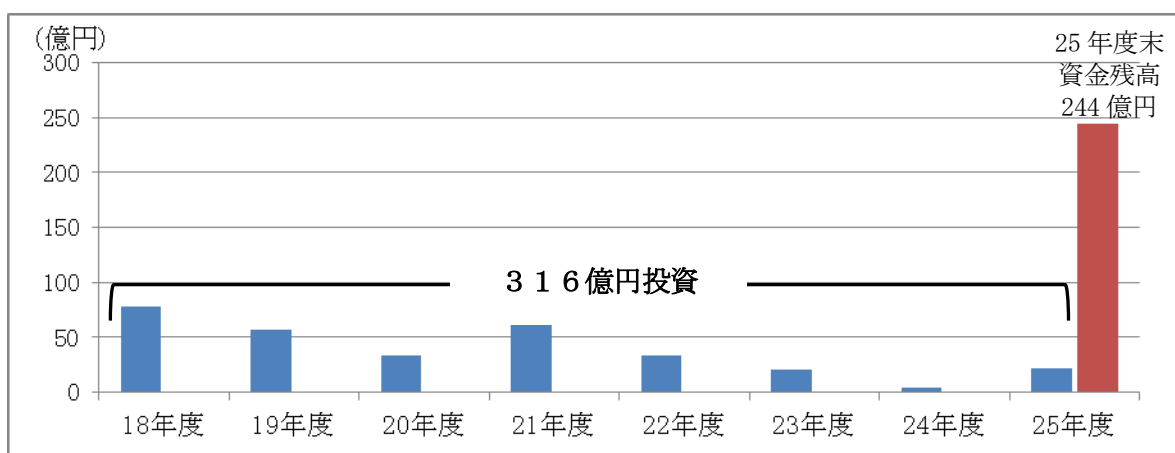


## IV. 財務の概要

### 1. 最近の投資と財務の状況

奈良学園では、各キャンパスの施設設備に対して、平成18年度から平成24年度にかけて大規模な投資を行った。その結果、学園内に耐震上問題となる建物はなくなり、施設設備面における競争力が強化された。平成25年度においても、三郷・登美ヶ丘両キャンパスの大学学部新設に向けての整備事業に取り組み、さらに充実した教育環境が整った。

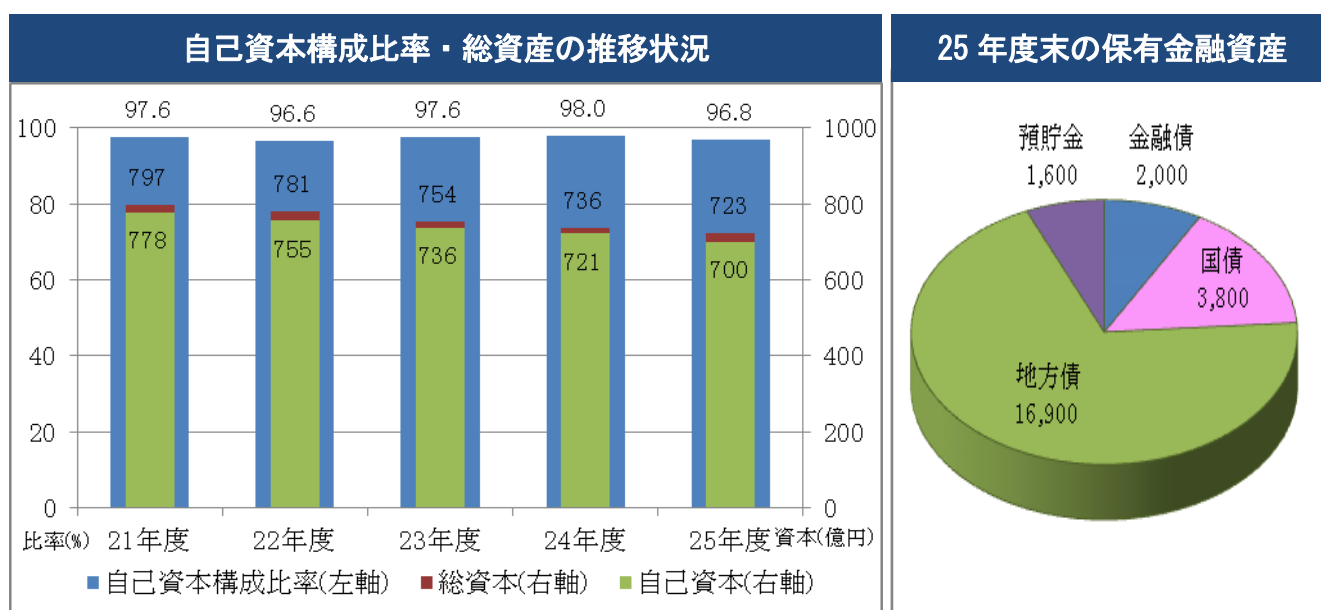
下表は、平成18年度から25年度までの投資実績をグラフ化したものである。これらの開発資金を全て自己資金で賄ったうえで、25年度末時点においてなお、充実した資金残高を保有している。



また、財務指標をみると、奈良学園の自己資本構成比率は極めて高く、学校法人としての自己資本の充実ぶりを示している。

奈良学園のスケールを示す総資産は、奈良県下大学法人の中で最上位の地位にある。

下表は、21年度以降の自己資本構成比率、総資産の推移状況及び25年度末の保有金融資産を示したものである。



## 2. 平成 25 年度決算の概要

### (1) 資金収支の概要

収入の部合計から前年度繰越支払資金を減じた当年度資金収入は 10,424 百万円、支出の部合計から次年度繰越支払資金を減じた当年度資金支出は、前年度比 1,977 百万円増加の 11,761 百万円となった。

当年度は、大学学部新設に向け三郷・登美ヶ丘両キャンパスの整備事業に取り組んだことで、施設・設備関係支出が 2,720 百万円と前年度比 2,602 百万円の大幅増加となり、資金支出増加の主要因となった。

また、次年度繰越支払資金は 1,600 百万円で前年度に比べ 1,336 百万円減少した。

#### 平成 25 年度 資金収支計算書

(平成 25 年 4 月 1 日から平成 26 年 3 月 31 日まで)

(単位：円)

収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	2,685,520,000	2,673,046,475	12,473,525
手数料収入	65,797,000	69,309,600	△3,512,600
寄付金収入	13,132,000	11,701,215	1,430,785
補助金収入	995,655,000	1,025,688,240	△30,033,240
国庫補助金収入	60,197,000	51,513,000	8,684,000
地方公共団体補助金収入	932,911,000	973,870,540	△40,959,540
その他補助金収入	2,547,000	304,700	2,242,300
資産運用収入	272,799,000	294,354,588	△21,555,588
資産売却収入	4,500,000,000	4,501,000,000	△1,000,000
事業収入	106,888,000	105,928,729	959,271
雑収入	60,920,000	132,653,920	△71,733,920
前受金収入	593,700,000	448,594,840	145,105,160
その他の収入	1,550,411,000	1,584,317,411	△33,906,411
資金収入調整勘定	△367,576,000	△421,842,489	54,266,489
前年度繰越支払資金	2,936,912,585	2,936,912,585	
収入の部合計	13,414,158,585	13,361,665,114	52,493,471

支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	3,746,820,000	3,679,988,957	66,831,043
教育研究経費支出	1,099,774,000	1,030,772,688	69,001,312
管理経費支出	559,980,000	578,945,679	△18,965,679
施設関係支出	2,197,876,000	2,202,780,616	△4,904,616
設備関係支出	760,339,000	517,815,299	242,523,701
資産運用支出	3,000,000,000	2,998,650,000	1,350,000
その他の支出	1,788,340,000	1,782,667,870	5,672,130
[予備費]	( 0 )		
	20,000,000		20,000,000
資金支出調整勘定	△922,006,000	△1,030,579,123	108,573,123
次年度繰越支払資金	1,163,035,585	1,600,623,128	△437,587,543
支出の部合計	13,414,158,585	13,361,665,114	52,493,471

## (2) 消費収支の概要

当年度帰属収入は 4,285 百万円で、基本金組入額 855 百万円を差引いた消費収入は 3,430 百万円となった。一方、消費支出は 6,448 百万円を計上し、当年度の消費収支差額は 3,017 百万円の支出超過となった。主要因は、大学学部新設に伴う支出増加と近年の大規模投資により、減価償却費が 963 百万円にまで高騰したことによる

### 平成 25 年度 消費収支計算書

(平成 25 年 4 月 1 日から平成 26 年 3 月 31 日まで)

(単位：円)

消費収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金	2,685,520,000	2,673,046,475	12,473,525
手数料	65,797,000	69,309,600	△3,512,600
寄付金	13,132,000	19,416,647	△6,284,647
補助金	995,655,000	1,025,688,240	△30,033,240
国庫補助金	60,197,000	51,513,000	8,684,000
地方公共団体補助金	932,911,000	973,870,540	△40,959,540
その他補助金	2,547,000	304,700	2,242,300
資産運用収入	272,799,000	294,354,588	△21,555,588
資産売却差額	18,000,000	17,109,600	890,400
事業収入	106,888,000	105,928,729	959,271
雑収入	34,580,000	80,831,658	△46,251,658
帰属収入合計	4,192,371,000	4,285,685,537	△93,314,537
基本金組入額合計	△1,102,715,000	△855,094,101	△247,620,899
消費収入の部合計	3,089,656,000	3,430,591,436	△340,935,436

消費支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費	3,782,434,000	3,652,310,446	130,123,554
教育研究経費	1,991,611,000	1,890,487,432	101,123,568
管理経費	658,911,000	682,709,623	△23,798,623
資産処分差額	318,121,000	221,447,544	96,673,456
徴収不能引当金繰入額等	1,150,000	1,633,440	△483,440
[予備費]	( 0 )		
	20,000,000		20,000,000
消費支出の部合計	6,772,227,000	6,448,588,485	323,638,515
当年度消費支出超過額	3,682,571,000	3,017,997,049	
前年度繰越消費収入超過額	3,456,676,501	3,456,676,501	
基本金取崩額	658,265,000	353,699,546	
翌年度繰越消費収入超過額	432,370,501	792,378,998	

### (3) 貸借対照表の概要

当年度末の資産総額は72,362百万円で、前年度末に比べ1,226百万円の減少となった。有形固定資産は、大学学部新設に伴い建物、教育研究用機器備品にかかる新たな資産取得により1,576百万円増加した。その他固定資産は奈良産業大学整備拡充資金引当特定資産の計上科目を流動資産へ移行したことにより、3,734百万円減少した。固定資産合計では2,157百万円の減少となった。流動資産合計は931百万円増加した。

総資金では、負債の部合計が2,406百万円で前年度末に比べ936百万円増加した。また、基本金及び累積の消費収支差額の合計である自己資金は前年度末比2,162百万円減少の69,955百万円となった。

平成25年度 貸借対照表  
(平成26年3月31日)

(単位：円)

資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	63,898,142,945	66,056,060,730	△2,157,917,785
有形固定資産	47,807,869,324	46,231,185,231	1,576,684,093
土地	22,580,384,151	22,580,384,151	0
建物	20,782,022,618	19,491,573,114	1,290,449,504
その他の有形固定資産	4,445,462,555	4,159,227,966	286,234,589
その他の固定資産	16,090,273,621	19,824,875,499	△3,734,601,878
流動資産	8,464,718,357	7,533,458,557	931,259,800
現金預金	1,600,623,128	2,936,912,585	△1,336,289,457
その他の流動資産	6,864,095,229	4,596,545,972	2,267,549,257
資産の部合計	72,362,861,302	73,589,519,287	△1,226,657,985
負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	839,285,423	815,141,672	24,143,751
長期借入金	0	0	0
その他の固定負債	839,285,423	815,141,672	24,143,751
流動負債	1,567,644,240	655,543,028	912,101,212
短期借入金	0	0	0
その他の流動負債	1,567,644,240	655,543,028	912,101,212
負債の部合計	2,406,929,663	1,470,684,700	936,244,963
基本金の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
第1号基本金	55,167,263,791	53,665,869,236	1,501,394,555
第2号基本金	2,539,160,689	3,539,160,689	△1,000,000,000
第3号基本金	11,000,000,000	11,000,000,000	0
第4号基本金	457,128,161	457,128,161	0
基本金の部合計	69,163,552,641	68,662,158,086	501,394,555
消費収支差額の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
翌年度繰越消費収入超過額	792,378,998	3,456,676,501	△2,664,297,503
消費収支差額の部合計	792,378,998	3,456,676,501	△2,664,297,503
科 目	本年度末	前年度末	増 減
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	72,362,861,302	73,589,519,287	△1,226,657,985

## (4) 平成25年度 財産目録(概要)

財 産 目 録

I 資産総額	72,362,861,302 円
内 基本財産	47,766,415,705 円
運用財産	24,596,445,597 円
収益事業用財産	0 円
II 負債総額	2,406,929,663 円
III 正味財産	69,955,931,639 円

区 分	金 額
資産額	
1 基本財産	
土地	478,316.21 m <sup>2</sup> 22,543,444,451 円
建物	122,443.41 m <sup>2</sup> 20,760,230,078 円
図書	376,103 冊 3,887 点 1,196,095,316 円
教具・校具・備品	39,727 点 1,139,427,162 円
その他	2,127,218,698 円
2 運用財産	
現金預金	1,600,623,128 円
その他	22,995,822,469 円
3 収益事業用財産	0 円
資 産 総 額	72,362,861,302 円
負債額	
1 固定負債	
長期借入金	0 円
その他	839,285,423 円
2 流動負債	
短期借入金	0 円
その他	1,567,644,240 円
負 債 総 額	2,406,929,663 円
正味財産(資産総額－負債総額)	69,955,931,639 円



(5) 業務報告書

監査報告書

平成 26 年 5 月 15 日

学校法人奈良学園  
理 事 会 御中  
評 議 員 会 御中

学校法人奈良学園

常勤監事 松田親典   
監 事 利田知之 

私たちは、私立学校法第 37 条第 3 項に基づく監査報告を行うため、学校法人奈良学園の寄附行為第 10 条の規定に従い、学校法人奈良学園の平成 25 年度(平成 25 年 4 月 1 日から平成 26 年 3 月 31 日まで)の、学校法人の業務及び財産の状況について監査を行った。

私たちは監査にあたり、理事会及び評議員会に出席するほか、理事等から業務の執行状況を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧し、会計監査人と連携して学校法人の業務及び財産の状況を監査した。

監査の結果、学校法人の業務及び財産に関し、不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実はなく、計算書類は平成 25 年度の収支の状況及び平成 25 年度末の財産の状況を適正に表示しているものと認める。

以上